

深日地区福祉委員会通信

第7号 2023(令和5)年2月1日(水) 深日地区福祉委員会 (連絡先 479-8464 加門憲文)

10・11月、「ふれあい喫茶」を本格的に再開しました 2年半ぶり、対面で交流深まる



感染防止に配慮しながら再開へ

深日地区福祉委員会は、コロナ感染が小康状態を見せ、社会生活にかかわる公的規制が解除される中で、2020年の春以降中止してきた「ふれあい喫茶」の再開を決めました。再開に当たっては、検温・マスク・手洗いとともに、換気・テーブルの仕切りの設置など、感染防止対策を徹底することを重視して準備をすすめてきました。

10月に78人、11月に65人が参加

10月19日には長生会を中心によびかけ、会場の深日会館には78人が集まりました。また、本格再開の11月16日には、65人が参加。約2年半ぶりの対面での「ふれあい喫茶」の再開に、参加者は口々に「やっぱり、みんなが集まれるのはええねえ」と大いに話がはずみ、久々に交流が深まりました。

(加門憲文)



「ふれあい喫茶」は1月より通常開催に

◎開催日…毎月・第3水曜日、午前10時～12時(8月・12月はお休み)

◎会場…深日会館 ◎参加費・申し込み不要(年齢不問、大人も子どもも大歓迎)

◎メニュー…コーヒー、紅茶(各100円)

「個別援助活動」がスタート

な場合やサロンに参加できなかった方等に、見守り訪問を行なうとりくみです。すでに実施している地区もあります。訪問先では、健康状態や困っていること、要望等を尋ねたり、昔の懐かしい地域の話に花が咲いたり…と、なごやかな雰囲気的时间が流れます。

ここ約3年、コロナ禍の状態が続いており、人と出会い人と話をする機会も少なくなってきました。話すことも認知症予防のひとつです。また、人と人とのつながりが希薄になっている中、このような小さな活動から、高齢者の方を中心に見守りをし、地域のつながりを深めましょう。

「個別援助活動」とは、コロナ禍や地域の事情で、一か所に集まっているいきいきサロンの実施が困難



(高倉雅代)

深日小学校との協働事業

福祉委員が協力して多彩に展開



「戦争は絶対に起こしてはならない」

8月6日、「平和体験学習」

8月6日、5年生を対象に「平和体験学習」が行なわれ、講師として深日在住の松尾光造さん（93歳）が戦争体験を話してくれました。松尾さんは、何もかも戦争が優先される中、少年時代に勤労働員により神戸で「兵器作り」をさせられたこと、岬町に帰る時に難波で大空襲に遭ったことなどの体験を説明。松尾さんは最後に、「戦争は絶対に起こしてはならない」と強調しました。（加門憲文）



思いやりの大切さ 実感

10月12日、「車いす体験学習」

10月12日、5年生（7人）を対象に、「車いす体験学習」を行ない、地区福祉委員など6人が参加。車いすの操作法を説明後、ふだんの道を想定したコースを作り、車いすを押す人、乗る人に分かれて体験しました。子どもたちとともに、私たちも体験を通じて思いやりの大切さを理解できました。（嘉戸克美）

白い紙飛行機、体育館に舞う

11月22日、「昔の遊び体験学習」

11月22日、深日小学校1年生20名を対象に「昔の遊び体験学習」を実施。地区福祉委員など8人が参加。「おはじき」「羽根つき」「けん玉」「こままわし」と、初めての遊びにみんな興味津々。最後に、みんなで大きな紙飛行機を何度も飛ばし、歓声をあげました。（中村 勲）



焼餅を食べ 昔のくらしを体感

12月13日、「昔のくらし体験学習」

12月13日、3年生（18人）を対象に、地区福祉委員など8人も参加して「昔のくらし体験学習」を実施。まず、体育館の外で七輪の「炭火おこし」。炭火がおこれば体育館で「餅焼き」です。子どもたちは、お餅を食べながら質問し、昔のくらしの話をじっくり聞くことができました。（加門憲文）